



mps

東京大学大学院工学系研究科
都市持続再生学コース

Master's Program in
Sustainable Urban Regeneration

東大まちづくり大学院

Urban Engineering Civil Engineering Architecture

2017年度コース案内

東大まちづくり大学院で学ぼう.....	1
教員紹介.....	2
教育プログラムの特色.....	4
在校生の声.....	6
修了要件と学位.....	8
入学試験.....	9



東大まちづくり大学院で学ぼう

(工学系研究科 都市工学専攻 都市持続再生学コース 社会人向け修士課程)

社会人のためのまちづくり大学院

東大まちづくり大学院（都市持続再生学コース）は、社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識をもった専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

学生像は、自治体都市計画関係職員・政府機関職員、不動産・建設・その他関連企業都市開発担当者、まちづくりNPOメンバー、まちづくりに関心をもつ社会人など多岐にわたると想定されており、実際に在校生は年齢20代から60代まで、出身大学は北海道から九州まで、職場も自治体あり、民間企業ありと多彩です。

人口減少、国際化、情報化等が進行する中で大きく変わる都市社会やまちづくりに、最新の知識と深い思考で立ち向かうために、ぜひ「東大まちづくり大学院」で学んでください。

特 徴

■在職したままで修了可能

夜間・土曜日の受講により在勤のまま所定の単位を修得することが可能です。
入学時に長期履修学生制度を申請すれば、同額学費で修学年限を3年または4年に延長することも可能です。

■横断的な教育プログラム・充実した講師陣と産学官の連携

東京大学大学院工学系研究科の3専攻の協力体制のもと横断的な教育プログラムを展開します(学生の所属は都市工学専攻)。教授陣は、学術面においてトップクラスの第一人者や新進気鋭の若手教員の他、国土交通省等の官庁・自治体・民間企業等で豊富な実務経験を有する優れた専門家で構成されています。また、本コースの中に、不動産関係3社、建設関係5社、エネルギー関係1社、住宅関係1社、電機関係1社の合計11社のご協力で、寄付講座(都市持続再生学寄付講座 Laboratory for Urban Sustainable and Renaissance Studies)が開設され教育・研究に当たっています。

■教育プログラムの特色

実践に必要な理論、知識、技法・技術を学ぶための文理融合型講義内容です。
持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくりなどの現代的な都市再生課題を取り上げます。広範囲な基礎知識を講義で身につけ、理論や技法・技術の応用・活用方法については、演習で理解を深めるという段階的な教育プログラムを採用しています。仕上げは、個別指導による修士論文のための研究で行います。

ご挨拶と東大まちづくり大学院教員紹介 (2017年4月1日現在)



dean of the school of engineering



■工学系研究科長
大久保 達也 教授

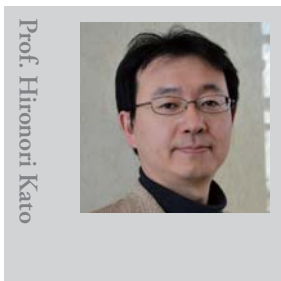
東京大学大学院工学系研究科には、様々な要因が複雑に絡みあった社会問題の解決に資するべく、多様な教育プログラムが用意されています。社会人を対象としたまちづくり大学院もそのひとつです。まちづくり大学院は、多様な側面から「まち」の課題を分析し、高度な知識と経験をもって有効な解決策を提案できる、まちづくりのプロフェッショナルを養成するためのプログラムです。社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻の三専攻が協力し、理論と実践をバランスよく組み込んだカリキュラムが運営されています。本プログラムを最大限に活用して専門知識と実践能力を磨いていただき、修了後はまちづくりの第一線で活躍されることを心より期待しております。

chairs of the departments concerned



■都市工学専攻長
滝沢 智 教授
専門分野：都市水システム、開発途上国の水供給

「まちづくり」という言葉には、都市施設の設計・建設だけでなく、職場や学校での活動や、医療機関や上下水道などの公共施設の利用など、都市で暮らす人々のあらゆる暮らしの要素が含まれています。まちづくりの専門家となり実践するためには、幅広い知識や経験と、高い専門性のバランスが必要です。まちづくり大学院での勉強や討論を通じて、是非これらの経験と能力を身につけてください。



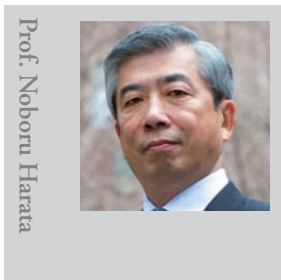
■社会基盤学専攻長
加藤浩徳 教授
専門分野：国際プロジェクト学、国際交通学、交通計画、交通政策

まちは、日常生活の場であるとともに、イノベーションの源泉でもあります。人口減少が確実な中、「小粒でもきらりと光る魅力的な社会」を作っていくためには、異質の考えを持つ人々が相互交流し切磋琢磨することによって、新たな問題を発見したり、画期的な発想を生み出したりできる環境の構築が不可欠です。本コースでの学習を通じて、創造的なまちをつくり、国際社会で活躍する人材育成に貢献できるようになることを期待しています。



■建築学専攻長
野口貴文 教授
専門分野：建築材料、維持保全、資源循環、防耐火

ストラディバリウスの華麗な音色と豊かな音量が最高のオーケストラと秀逸な指揮者によって活かされるように、著名な建築家によって設計され、超一流の建設会社によって建設された「建物」は「まち」によって活かされます。「まち」は、そこで活動を営む「人」とともにあり、「人」に空間を提供するだけでなく、「ヒト」の活動にリズムを与えます。本コースでの学習を通じて、「人」と「建物」が壮大なメロディを奏でることができる「まち」を指揮されるリーダーとなられることを期待しています。



■まちづくり大学院 コース長
原田 昇 教授
専門分野：交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動分析

まち大は、入学者数178名、修了者数109名と実績を重ね、学年を超えた学生交流も活発です。社会人学生の持つ専門性と高い問題意識が、豊富な講師陣による質疑の盛んな講義、学生の専門性が化学反応を起こす演習、アカデミックな作法の中で独自の研究成果をまとめる修論構築と格闘することを通して、現代社会のまちづくりに役立つ発想、知識と技法が習得され、現場のプロジェクトチームをリードする人材が輩出されることを期待します。

■都市工学専攻

浅見 泰司	教授	都市計画、都市住宅学、空間情報解析
大方潤一郎	教授	都市計画、土地利用計画、都市空間変容のコントロール手法、自治体固有の都市地域空間のマネジメントシステム、超高齢化社会対応のコミュニティの社会的空間的設計
城所 哲夫	准教授	アジア都市論・地域活性化論
窪田 亜矢	特任教授	地域デザイン、復興計画
瀬田 史彦	准教授	人口減少局面の国土・地域・都市政策
高見 淳史	准教授	都市交通計画、交通と土地利用の統合的計画
中島 直人	准教授	都市デザイン、都市論、都市計画史
西村 幸夫	教授	都市デザイン、都市保全
原田 昇	教授	交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動分析
樋野 公宏	准教授	居住セキュリティ、都市居住・住環境
廣井 悠	准教授	都市防災、リスク工学
古米 弘明	教授	都市雨水管理、下水道システム、水環境保全
村山 顕人	准教授	環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法
森口 祐一	教授	物質フロー分析、ライフサイクルアセスメント、廃棄物処理・リサイクルシステム
横張 真	教授	緑地環境計画、ランドスケープ計画、サステナビリティ
ほか、都市工学専攻教員		

■先端科学技術研究センター

小泉 秀樹	教授	コラボラティブ・プランニング、まちづくり論、コミュニティ・デザイン
-------	----	-----------------------------------

■生産技術研究所

加藤 孝明	准教授	地域安全システム学、減災・復興まちづくり、自然災害リスク評価、計画支援システム
-------	-----	---

■社会基盤学専攻

羽藤 英二	教授	都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論
ほか、社会基盤学専攻教員		

■建築学専攻

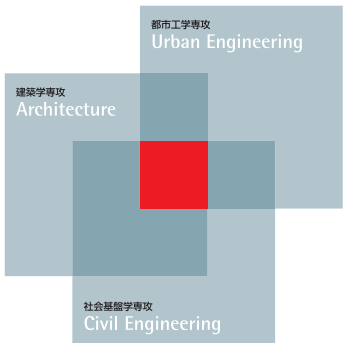
隈 研吾	教授	建築家、都市・建築デザイン
ほか、建築学専攻教員		

■非常勤講師(予定を含む)

明石 達生	東京都市大学都市生活学部	教授
遠藤 薫	東京電機大学未来科学部建築学科	特任教授
亀卦川幸浩	明星大学理工学部	教授
片山 健介	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	准教授
鈴木 俊治	有限会社ハーツ環境デザイン	代表取締役
篠沢 健太	工学院大学建築学部	教授
高松 誠治	スペースシンタックス・ジャパン株式会社	代表取締役
田中 正人	都市調査計画事務所	代表・追手門学院大学 准教授
田中 暁子	公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所	研究員
野田由美子	PwCアドバイザリー合同会社	都市ソリューションセンター長
信時 正人	エックス都市研究所	理事
増田 寛也	野村総合研究所	顧問
森 民夫	元長岡市長・全国市長会会長	
宮城 俊作	設計組織プレイスメディアパートナー	
和良地克茂	株式会社ワブリュス	代表取締役

*教員の最新情報は、東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/faculty.html>)をご覧ください。

教育プログラムの特色



充実したコースワーク

従来の研究重視型大学院教育とは異なり、実践に必要な広範な理論、技法・技術を獲得するため、文理融合型の充実したコースワークを用意しています。

現代的都市再生課題に焦点をあてた段階的な教育プログラム

持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくり、といった現代的な都市再生課題を講義の主題に捉え、これら課題に取り組む際に実際に役立つ理論、知識、技法・技術を身につけ、必要とされる企画構想力・調整能力を養います。

段階的な教育プログラム

異なる講義形式を用いた段階的な教育プログラムにより、効率的に受講生の能力を高めます。広範にわたる基礎知識を座学型講義で身につけ、都市再生実務における理論や技法・技術の応用・活用方法についてはケースメソッドで理解を深めます。そして、実務実践型講義では身につけた知識を活かすために必要となる構想・調整能力を養います。

■講義

都市空間政策 (選択:1単位/半学期)

都市の空間計画、交通政策、環境政策、安全・安心、都市福祉政策、都市のガバナンスといった広範な領域について、充実した講師陣による最先端の講義によって、現代の都市づくり・まちづくりに必要な知識を獲得します。

都市経営基礎 (選択:各2単位/1学期)

マネジメント、行財政制度、住宅・不動産開発、都市社会論といった広範な領域について、社会科学系の基礎知識を体系的に獲得します。

都市経営戦略 (選択:各2単位/1学期)

都市の産業と経営戦略、都市の文化・観光政策といった講義群により、都市経営や都市政策の立案に必要とされる、より実践的な知識を獲得します。

その他 (上記の講義の一部または特別講義により行うもの)

省庁担当官等による都市関係制度・事業、自治体による先駆的試み、最新の都市開発事例などを紹介・概説する講義・セミナー、学術研究や論文執筆の手法を概説する講義、また自治体首長、先進事例の実践者、海外の著名研究者による講義・講演などを予定しています。

■演習

まちづくり演習 (1年次) (必修:3単位/1学期 全6単位)

日常生活圏のまちづくり、持続可能な都市圏計画、中心市街地＝ダウンタウンの再生、都市空間・環境・コミュニティのデザインの4つの主要課題を対象に、都市再生の第一線で活躍する専門家(非常勤講師を含む)による実践的指導のもと、政策・手法・戦略・事業の企画構想・提案を行います。演習では、ケースメソッド方式の講義を踏まえつつ構想・提案を行います。

まちづくり演習 (2年次) (選択:最大2単位/1学期)

まちづくりのマネジメント、都市開発事業の企画設計といったテーマをもとに、自由選択で行います。

■研究

都市持続再生学特別演習 (修士研究 必修:2単位/1学期 全4単位)

学生の実務・関心に直結した研究を2年次より行います。

講義：平日夜 火・水・木・金 6限：18：40～20：05、 7限：20：10～21：35
演習：土曜日 3-5限：13：00～18：10 研究：随時

	A1・A2ターム(冬学期)	S1・S2ターム(夏学期)
講義 (選択) 都市空間政策 各1単位(半学期) 火・水・木・金(6限、7限)	都市地域計画論・基礎編 ●都市空間政策の基礎(都市計画制度概説、都市マスタープラン・土地利用計画の策定手法、地区レベルの計画策定手法)	都市地域計画論・街並編 ●都市デザイン、復興とまちづくり
	都市の交通政策Ⅰ ●交通まちづくり、持続可能な都市、合意形成の実践	都市の交通政策Ⅱ ●交通まちづくり、交通バリアフリー、少子高齢化社会
	都市情報の分析Ⅰ ●都市解析	都市情報の分析Ⅱ ●交通・土地利用・人口分析とGIS
	都市と環境Ⅰ ●環境工学の基礎	都市と環境Ⅱ ●環境工学の応用
	都市防災概論 ●災害対応を中心とした都市の防災・減災政策	都市ソリューション論 ●都市輸出、途上国・振興国都市の持続的発展
都市経営基礎 各2単位(1学期)	都市開発のマネジメント論 ●マネジメントのあり方	安全安心まちづくり論 ●日常的な危険への対応
	都市計画・まちづくりの制度 ●都市計画制度とその運用	超高齢化社会のまちづくりⅠⅡ ●活力ある超高齢化社会の構築と実現手法
	都市社会論 ●社会学的な視点と都市問題	都市地域政策の構想と展開 ●政策担当者による講義
都市経営戦略 各2単位(1学期)	都市の文化・観光政策 ●都市における文化と観光要素	都市再生・不動産開発事業とファイナンス ●都市・不動産開発の実務
その他 1単位(1学期)		都市産業と経営戦略 ●産業活動の動向とイノベーション
演習 各3単位(1学期)(必修) 全6単位 土曜3-5限	日常生活圏のまちづくり ●少子高齢化社会に対応したまちづくり手法	学術研究基礎 ●研究および論文執筆の手法
	持続可能な都市圏計画 ●都市圏計画・広域計画の策定	パブリックライフ／パブリックスペース ●快適性、美しさ、賑わい、路上空間の活性等の戦略と手法
演習 最大2単位(1学期)(選択) 土曜3-5限	まちづくりのマネジメント ●地域再生	ランドスケープ・デザインコース コミュニティ・デザインコース *いずれかのコースを選択
	都市開発事業の企画設計 ●都市と住宅・不動産開発	
研究 各2単位(1学期)(必修) 全4単位 随時	修士論文研究	
		修士論文研究

■特別講義(随時開催) ■他コース、他専攻講義(平日昼間開催・自由選択) ■演習(選択)については、学生の希望に応じて内容を変更する事がある。

*上図は、各講義の大まかな開講時期と概要を示しています。より正確な開講時期やシラバスは、各学期開始前にご確認ください。
また、現在のシラバスは東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/curriculum.html>)でも公開しています。

まち大ライフのススメ

まちづくり大学院への入学を志望される皆さんを後押しすべく、2016年9月に入学した第10期生を中心とした座談会を通じて、入学後の雰囲気をお伝えします。

●座談会出席者紹介

飯村氏(30代、女性、建設業)	中村(ま)氏(30代、女性、広告業)	藤井氏(40代、男性、不動産)
石塚氏(40代、男性、住宅メーカー)	那須氏(30代、男性、官公庁)	松下氏(30代、男性、建設コンサル)
加藤氏(30代、男性、建設コンサル)	濱田氏(30代、男性、鉄道)	水上氏(20代、男性、官公庁)
後藤氏(40代、男性、官公庁)	疋田氏(50代、男性、民放テレビ局)	宮越氏(30代、女性、鉄道)
中村(え)氏(30代、女性、金融機関)	深野氏(30代、男性、不動産)	三好氏(50代、女性、官公庁)



■15名による座談会の様子

■学業と仕事の両立について

三好：私は公務員ですから、事前に職場の許可が必要でした。受ける前から相談しないといけないので、プレッシャーです。しかも職場は上田市です。どうしたらきちんと通学できるかも含めて、いろいろと交渉しました。最終的には昨年度から始まった「時差勤務制度」を活用して、1時間前倒しで業務を行い、退勤後すぐに新幹線に乗ることで解決しました。

宮越：私も、まち大に通うことについて会社にどう認めてもらうか悩みました。社内初のまち大生だったので、上司や同僚の理解を得るために、仕事と通学が両立できる年間・週間のスケジュールをきっちり立てて相談しました。両立できることが分かると、快く許可してもらいました。今では理解してもらっていて、まち大に行くとき、「いってらっしゃい」と言われます。周囲の人たちの支えに感謝しています。

水上：独立行政法人は事前許可が必要ないので、私の場合は受かってから報告しました。現在の部署は4人しかいない忙しい部署です。ただ、会社が朝早くきて、夕方早く帰る「ゆう活」を推奨しているの

で、割と好意的でした。今では「まち大でどんなことを習っているのか教えて」と聞かれ、私もいろいろなことを報告しています。興味をもってくれていますね。

中村：時間のやりくりは大変だと思っていましたが、通学(え)を始めて、逆にメリハリがつくようになりました。残業はできません。なので朝きっちりやって、ここに来ます。

松下：確かにそういった副産物がありますね。私も学業と仕事の両立はだいぶ不安でしたが、むしろ、始めてみたら生産性が上がりました。時間の使い方をよく考えるようになりましたね。

石塚：ただ、とにかく出張の調整は大変ですね。日曜日と月曜日は講義・演習がありませんから、なんとかその曜日に入れたいのですが、どうにもならないことがあります。

加藤：私の場合は、まち大に入学する前は、年間7か月海外出張に行っていましたから。今は出張を春休み、夏休みのみに限定してもらっています。とにかく会社に感謝です。

■新たな気づき

後藤：まち大に入学して、仕事に関連していた先生と繋がりが深まったほか、学生同士のネットワークが広がりました。普段の仕事では絶対に出会わないような業種の皆さんとも知り合うことができました。あたりまえと思っていたことが、説明しても通じないこともあり、とても新鮮です。

中村：私は広告が専門ですが、広告業界でまちづくりというと、(ま) まちの魅力を伝えるためのプロモーションなど、「表現」することが中心です。まち大に来て、制度を運用したり、開発事業を推進したり、異なる観点でまちづくりをする人と一緒に講義や演習を受けていて、いろいろなことを吸収しています。

疋田：とにかく視野が広がりましたね。私は自転車と交通システムについてこれまでずっと考えてきましたが、9月までは比較的シンプルに考えていたんです。でも、入学して、まちづくりの観点を知って、シンプルではなくなりました。下水からヒートアイランドからすべて考えなくてはいけないことがよくわかった。今後はそうやって見えてきた課題をクリアにしていくために、ますます学んでいきたいですね。

藤井：前の大学院でも2年間都市デザインを学びました。でも知れば知るほどもっと知りたくなります。まち大の最大の魅力は教授陣の手厚さ。期待をはるかに上回る充実ぶり。一流の先生が一流の先生を連れてくる。これ以上の贅沢はないですね。

■受験生の皆さんへ

那須：いざ入学すると、建築や都市計画といったように、専門がまちづくりと真ん中の人が多いことが分かり、文系で政治学を学んだ自分がよく受かったなと思いました。でも、まち大では、それぞれの専門を生かして新しい議論をしようという雰囲気があります。不安だった講義・演習も、分野が違っていても、なんとかついていけます。

飯村：建築、都市計画以外の視点が、新しい考えを生み出す。まち大ならではの面白さですね。

濱田：私は学部卒なので大学院は初めてです。大学院は、やりたいことが定まっていって、それを2年間かけて研究するイメージ。でも、まち大の幅広い講義を受けていると、自分の興味が広がっていきます。いろいろとやりたいことが湧き出る。今はどこに収束させるか考えるのが楽しいんです。2年じゃもったいないですね。

松下：私は入学前から、同期の皆さんとネットワークを作れることをとても楽しみにしていました。これがまち大へ来た最大の目的といってもいいくらいです。そのことが達成でき、充実した時間を過ごしています。不安なこともあるかもしれませんが、必ずかけがえのないものが得られます。ぜひ、チャレンジされることをお勧めします。

(2017年1月21日 工学部14号館141講義室にて開催)



■学生と教員との距離が近いまち大の講義

三好：社会人になって、学ぶ環境・時間がとても貴重だと分かりました。仕事をして、自分の中で課題が分かってきて、その時期に学べる機会があるというのが重要なんだと思います。今まさにそういう時期にまち大で学ぶことができることに感謝しています。

深野：ここに来て、いろんな分野の方と知り合いになり、「専門」がいかにたくさんあるかというのを知りました。私自身の専門も、一つの小さな専門だったことを客観的に理解することができました。



■教員・現役学生・修了生が集う忘年会

■第10期生のプロフィール
人数：18名
年齢：24～51歳(平均40歳)
性別：男性14名、女性4名
出身学部：工学、経済学、文学、理工学、総合政策学、農学、園芸学、人文学など



修了要件と学位

requirements for graduation

- 所定の 30 単位を修得し、修士論文を提出して合格すること。
学位：修士（工学）



■長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限では、大学院の教育課程を履修することが困難であると認められる者に限り、標準修業年限を超えた計画的な履修年限を設定することができる制度です。

修士課程での標準履修年限である2年間を、3年または4年に延長して、計画的に履修することができます。

この制度では、標準履修年限の授業料の総額を長期履修期間として認められた年数で支払うことになります。たとえば、修士課程において、3年の長期履修が認められた場合、1年間に支払うべき授業料(年額)は、2年分の授業料(通常の年額×2)の総額を3(3年間)で除した額となります。

入学試験

entrance examination

- 出願資格(次の①及び②を満たす者)

- ①大学を卒業した者
- ②原則として、出願時までに都市の計画、デザイン、マネジメント、整備・保全、あるいはさまざまなまちづくり活動に関わる分野で、社会人として2年以上の実務経験を有する者。
※詳しくは、学生募集要項を参照してください。

■平成29年度入学試験日程

学生募集要項・入学志望者案内配布開始日 4月 3日(月)
説明会 4月10日(月) 19:00～
本郷キャンパス 工学部14号館141講義室

出願時期 5月 9日(火)～5月19日(金)
入学試験 6月24日(土)
合格発表 7月14日(金)
入学手続 9月19日(火)・20日(水)
入学式 9月22日(金)

※学生募集要項・入学志望者案内の入手方法については、
東大まちづくり大学院のサイトでご確認ください。

■入学試験の内容

筆記試験(英語、専門科目、小論文)、口述試験

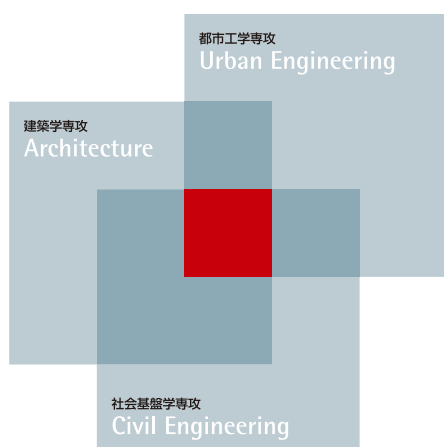
※上記の記述(出願資格・入学試験日程・入学試験の内容)は、いずれも予定です。
入学試験の詳細については、必ず「学生募集要項」、「入学志望者案内」でご確認ください。
※入試過去問題の販売については東大まちづくり大学院のサイトをご覧ください。

■平成28年度入試結果

募集人員：12名 志願者数：53名
合格者数：18名 入学者数：18名

■学費

入学料：282,000円(予定額)
授業料：年額 535,800円(予定額)



■お問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室内 東大まちづくり大学院デスク

TEL:03-5841-8362 FAX:03-5841-0370

E-mail office@mps.t.u-tokyo.ac.jp URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>

